

環境経営レポート

株式会社 松下工作所 Matsushita

2023 年度 第 44 期

(対象期間: 2023 年10月1日～ 2024 年9月30日)



発行日: 2024年11月10日
更新日: 2025年2月21日

目 次

項 目	ページ
ごあいさつ	2
環境経営方針	2
組織の概要	3
事業・製品の紹介	3
環境経営組織図及び役割・責任・権限表	4
主な環境負荷の実績	5
環境経営目標及びその実績	5
環境経営計画の取組結果とその評価	6～10
環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果，並びに違反，訴訟等の有無	10
緊急事態対応訓練	11
代表者による全体の評価と見直し・指示	11



弊社で行っているエコアクション21の取り組みは世界規模で見るとほんの小さなことかもしれませんが、将来この環境についての取り組みが広がれば大きなことになると思います。弊社はその一員になれるようこれからもエコアクション21を継続していきます。

環境経営方針

私たちはものづくりに情熱と誇りを持ち活力あふれる環境を構築します。
本業である金属製品の生産を通じて、地球温暖化問題への取り組みや地域の環境活動に自主的・積極的に取り組みます。仕事を通して自分の幸せを追い求めると同時に会社の仲間、材料屋さん、お客様、大工さん、さらには当社の納品した製品を使う人、その店に来られるお客様まで全員の幸せを目指し商品を効率よく、無駄なく、お客様に提供することが当社の一番の環境対策と考えて、従業員一丸となって継続的に改善活動に取り組んでまいります。

環境保全への行動指針

1. 環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。
2. 創意工夫による省エネルギー等により二酸化炭素排出量の削減に努めます。
3. 廃棄ロスをなくす等廃棄物の発生抑制に努めます。
4. 適正な利用により水使用量の削減に努めます。
5. 溶剤など適正管理に努めます。
6. 環境に配慮した製品をお客様にお届けします。
7. 自社ブランド製品の拡販により企業価値向上を目指します。
8. 地域や関係団体の社会活動に積極的に参加します。



制定日：2022年10月1日
改定日：2024年2月13日

代表取締役 松下寛史

組 織 の 概 要

(1) 名称及び代表者名

株式会社 松下工作所
代表取締役 松下寛史

(2) 所在地

本 社 大阪府東大阪市渋川町1丁目10番27号

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者	製作部	迫田翔一	TEL : 06-6727-8280
担当者	経理部	松下典子	TEL : 06-6727-8280

(4) 事業内容

オーダーメイド金物の製造

(5) 事業の規模

売上高	1.35 億円	
	本	社
従業員	名	12 名
延べ床面積	m ²	504 m ²

(6) 事業年度

10 月 1 日 ~ 9 月 30 日

□ 認証・登録の対象組織・活動

登録組織名: 株式会社 松下工作所
対象事業所: 本 社

対象外: なし
活動: オーダーメイド金物の製造



□ 事業の紹介

主な事業の紹介

仕事・暮らしに関わるオーダーメイド金物を職人の手で作ります。
OEMが9割を占めますが、自社ブランドに続き2022年はアウトドアブランド
【ORANGE FACE】を立ち上げました。
現在は自社製品の営業も強化しております。

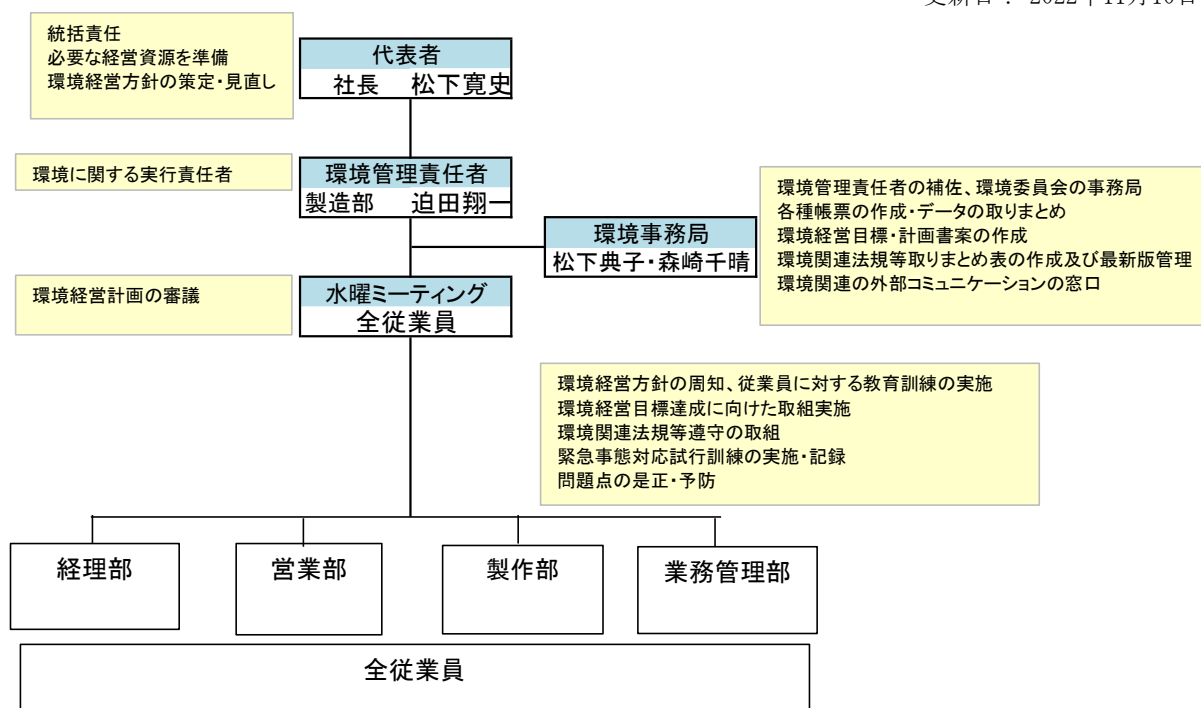


←オレンジフェイスの詳細はこちらから

株式会社松下工作所のホームページはこちらから
<https://m-kousaku.co.jp/>

環境経営組織及び役割・責任・権限

更新日：2022年11月10日



環境方針の理解と環境への取組
の重要性を自覚

決められたことを守り、自主的・積

主な環境負荷の実績

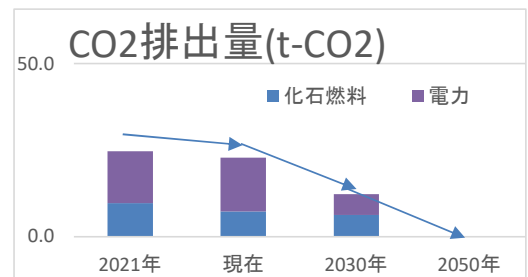
項 目	単位	2021年	2022年	2023年
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	24,683	22,625	22,811
廃棄物排出量				
一般廃棄物排出量	k g	2,160	1,201	967
産業廃棄物排出量	k g	2,553	1,761	2,134
水使用量	m ³	172	257	190
※電力の二酸化炭素排出係数（調整後）		0.444	0.444	0.444
※産業廃棄物は金属くずで全量売却		リコージャパン	リコージャパン	リコージャパン

kg-CO₂/kWh

カーボンニュートラルに向けたわが社の取り組み

単位：t-CO₂

	化石燃	電力	対 策
2021年	9.7	15.0	
現在	7.3	15.5	省エネ+ハイブリッド車
2030年	6.3	6.0	省エネ+ハイブリッド車+再エネ電力
2050年	0.0	0.0	省エネ+太陽光発電+電気自動車+再エネ電



環境経営目標及びその実績

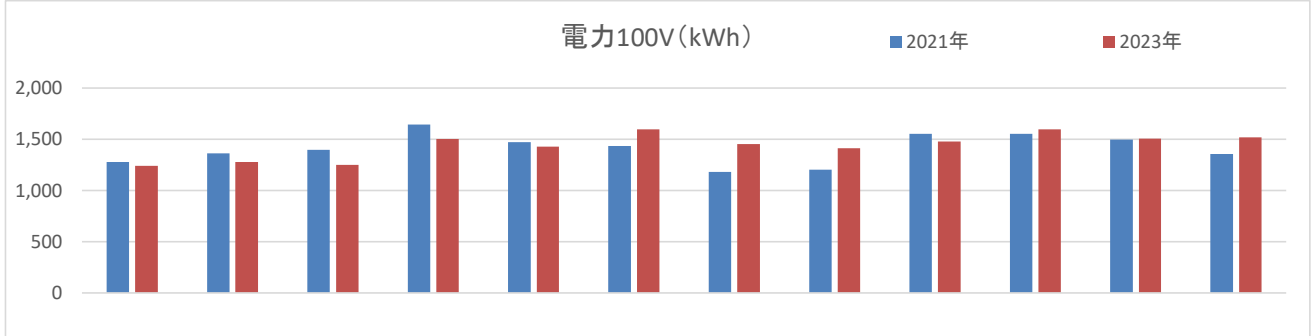
年 度 項 目		基準値		2023年		評 価	2024年	2025年
				2022.10.1～2023.9.30			2023.10.1 ～2024.9.30	2024.10.1 ～2025.9.30
		(基準年)		(目標)	(実績)		(目標)	(目標)
電力による二酸化炭素削減(100V)	kg-CO2	7,387	6,944	7,664	×	6,870	6,870	
	基準年度比	2021年	94%	104%		93%	93%	
	原単位	kg-CO2/千円	0.050	0.047	0.057	×	0.047	0.047
電力による二酸化炭素削減(200V)	kg-CO2	7,627	7,322	7,857	×	7,246	7,246	
	基準年度比	2021年	96%	103%		95%	95%	
	原単位	kg-CO2/千円	0.052	0.050	0.052	×	0.049	0.049
都市ガスによる二酸化炭素削減	kg-CO2	750	622	646	×	615	607	
	基準年度比	2021年	83%	86%		82%	81%	
灯油による二酸化炭素削減	kg-CO2	2,585	2,559	1,943	○	2,481	2,455	
	基準年度比	2021年	99%	75%		96%	95%	
自動車燃料による二酸化炭素削減	kg-CO2	6,332	4,749	4,703	○	4,686	4,623	
	基準年度比	2021年	75%	74%		74%	73%	
	kg-CO2	24,680	22,196	22,813		18,801	18,738	
電力使用量の削減 (100V+200V)	kWh	33,815	31,786	34,957	×	31,448	31,448	
	基準年度比	2021年	94%	103%		93%	93%	
	原単位	kWh/千円	0.113	0.106	0.128	×	0.105	0.105
一般廃棄物の削減	kg	2,160	1,296	966	○	1,296	1,296	
	基準年度比	2021年	60%	45%		60%	60%	
水道水の削減	m ³	172	170	190	×	169	167	
	基準年度比	2021年	99%	110%		98%	97%	
化学物質の適正管理		行動目標(次項による)						
環境に配慮した製品の提供		行動目標(次項による)						
自社ブランド製品の拡販		行動目標(次項による)						

環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の計画

数値目標:○達成 ×未達成

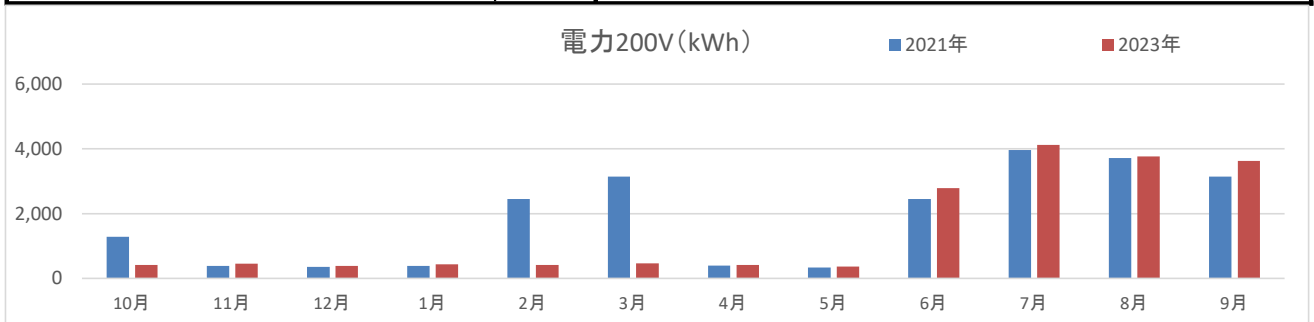
活動:○よくできた △あまりできなかった ×全くできなかった

電力による二酸化炭素削減(100V)	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	今期は目標数値を94%を目指していましたが104%になってしまいました。受注額のわりに仕事量が多くなっている傾向にあり、職人も1人増えて100Vの機械の使用が増えたことや3Dプリンターの夜間連続稼働もあり4%の増加となった。来期は業務終了前のエアコン停止を徹底するとともに設定温度を無理のない夏27℃の設定温度を遵守する、また3Dプリンターの稼働を昼間にすることにより無駄な電源を切るなどして99%を目指します。  
原単位目標	×	
冷房業務終了15分前に停止(2F社長室、会議室)	△	
室内温度の適温化(夏28℃程度)を徹底している(2F上記と同じ)	△	

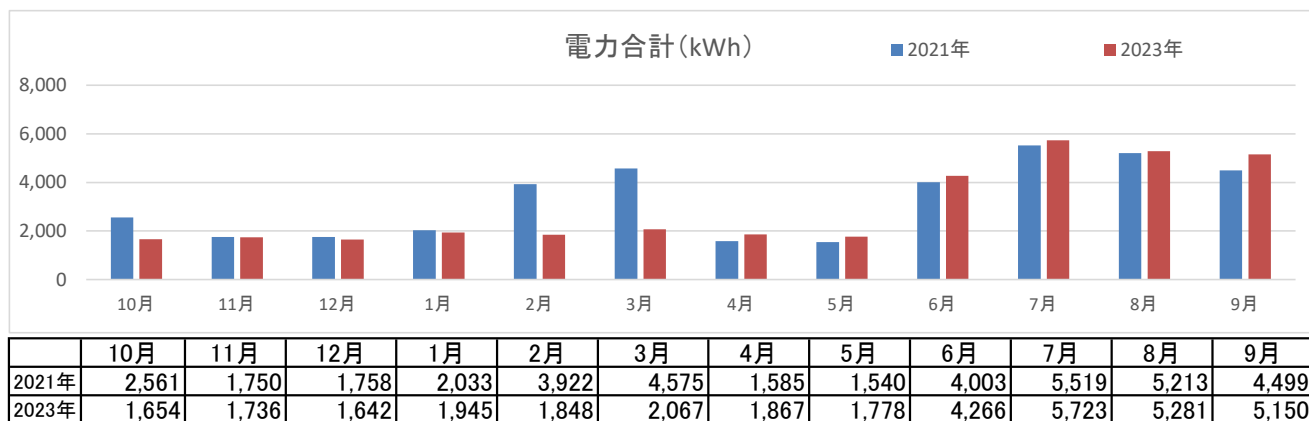


	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
2021年	1,278	1,363	1,397	1,644	1,472	1,434	1,181	1,202	1,553	1,553	1,495	1,358
2023年	1,241	1,280	1,248	1,504	1,427	1,596	1,453	1,413	1,476	1,598	1,508	1,518

電力による二酸化炭素削減(200V)	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	業務終了前のエアコンの停止が不十分で、夏の温度設定も28℃は無理があった。搬入口のビニルシャッターの開閉頻度も影響していると考えられる。職人が1日増えたことによる200V機械の使用が増えたことも原因と考えられる。次年度はエアコンの停止と温度設定を27℃にして、大きな電力を使う機械のメンテナンスを行い消費する電力を少しでも抑えるようする。目標は99%とする  
原単位目標	×	
冷房業務終了15分前に停止(2F食堂、事務所)	△	
冷房業務終了15分前に停止(1F工場)	△	
室内温度の適温化(夏28℃程度)を徹底している(1F・2F)	△	
コンプレッサーについては、必要十分なライン圧力に低圧化している(0.70~0.80に設定)	○	

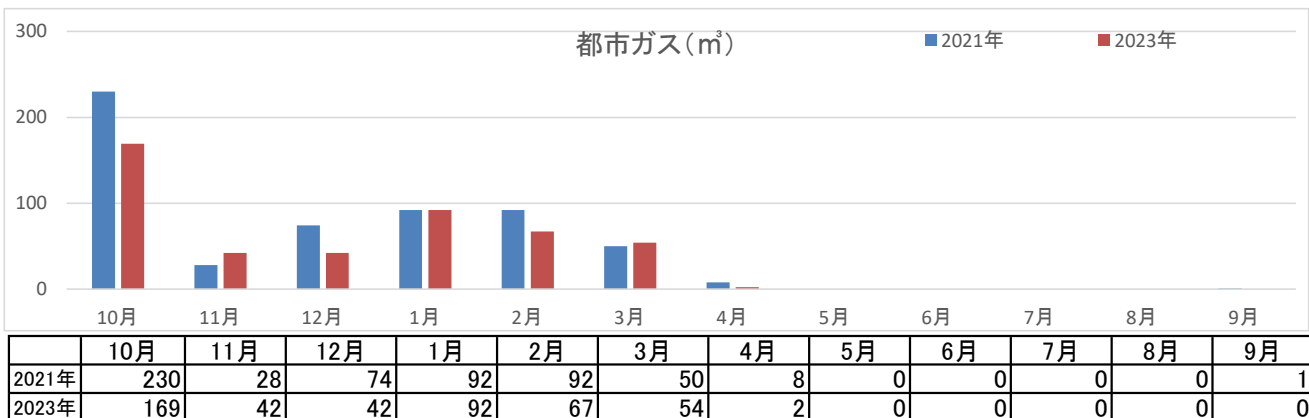


	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
2021年	1,283	387	361	389	2,450	3,141	404	338	2,450	3,966	3,718	3,141
2023年	413	456	394	441	421	471	414	365	2,790	4,125	3,773	3,632

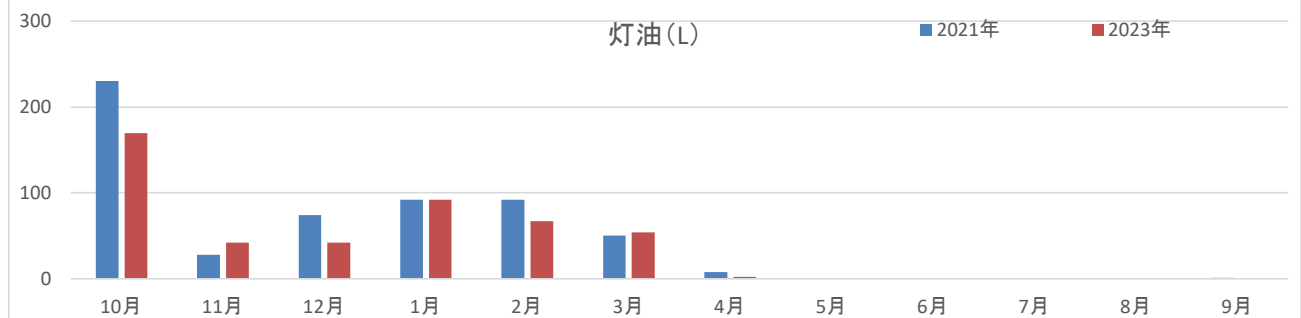


都市ガスによる二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	2階事務所ではガスストーブを使う際にはドアを閉め余分な熱を逃がさないような工夫を行っております。次年度も引き続き83%を目標にします。
ガスストーブ業務終了15分前に停止	△	
室内温度の適温化(冬20℃程度)を徹底している	○	



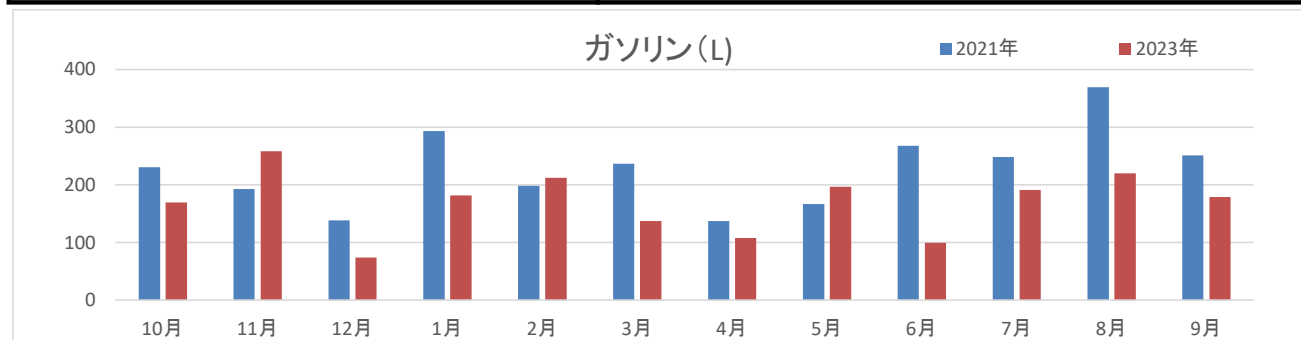



灯油による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	工場内では自発的に終了15分前に灯油ストーブを消す傾向が出てきました。引き続き呼びかけを行っていきます。次年度は今年度の実績より75%を目標とします。
灯油ストーブ業務終了15分前に停止	○	



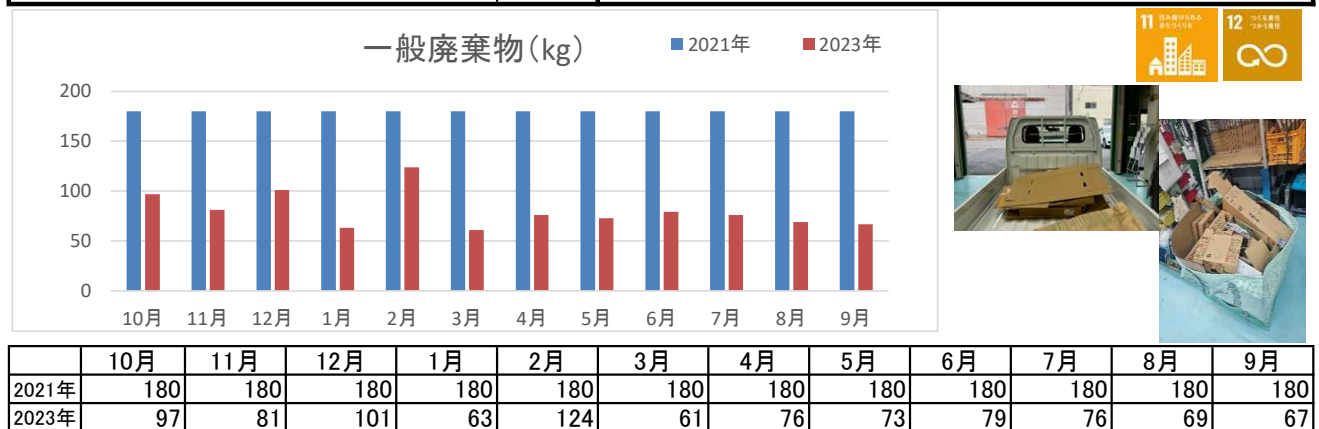
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
2021年	0	108	216	216	324	174	0	0	0	0	0	0
2023年	97	0	324	216	108	132	0	0	0	0	0	0

自動車燃料による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	目標数値が75%に対し74%にできました。軽トラ1台、ハイエース1台で配達、材料引き取りなどに使用しています。仕事内容走行距離は変動しますが次年度も同じ75%を目指します。
納品や横持ちの計画化・平準化、行き過ぎた少量・多頻度輸送の減少に務めている	○	

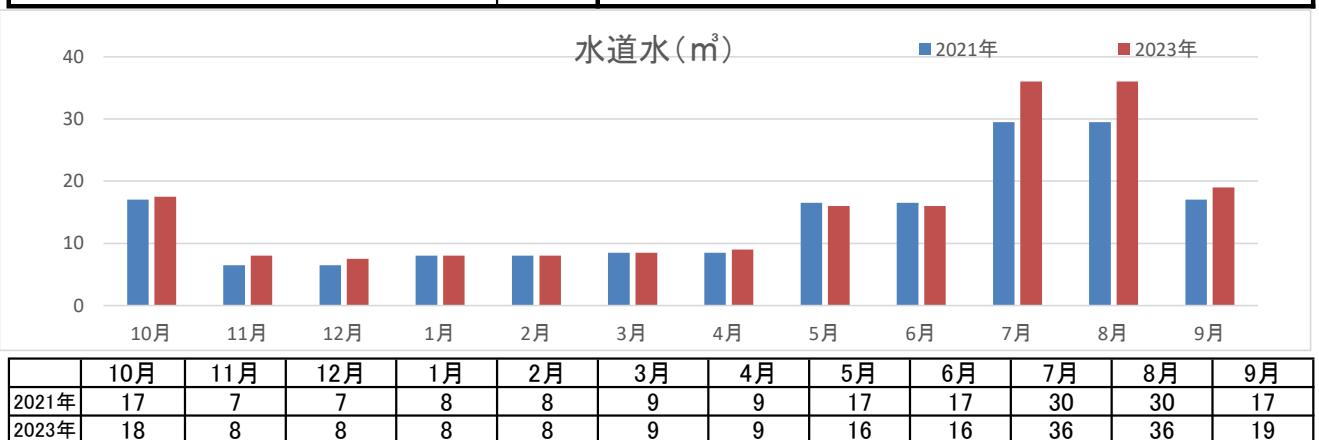


	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
2021年	230	193	138	293	198	237	137	167	268	249	369	251
2023年	169	258	74	182	212	137	108	197	100	191	220	179

一般廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	目標数値60%に対して45%で目標を達成いたしました。段ボール・紙の分別を始めてわかったのが弊社は紙の廃棄が多いことがわかりましたエコアクションで記録をとることわかりました。基準値が想定値であったので次年度は今年度の測定値を基準とする。次年度も引き続き分別を行います。
スチール缶・アルミ缶の分別の徹底	△	
ダンボール、紙、ペットボトルの分別	△	
3S（整理・整頓・清掃）活動を実施して廃棄物の分別を徹底をし可能な場合は売却	○	



水道水の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	今まで軍手を洗い再利用することがなかったのですが今年度から洗いはじめました。会社にとってはいいことなのですがやはり水道水を多く使うためそれ以外の節水を次年度では考えます。次年度も99%を目標とします。
社用車の洗車を必要最小限に留め、洗車する場合は節水を励行している	○	
節水呼びかけの表示をしている	○	



化学物質の適正管理	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
錆止めスプレー、ラッカーシンナーの適正管理に努めている	○	シンナーやスプレーなどの適正管理を続けてしています。それと同時に少し取りにくい場所にあるスプレーの位置を変更したりなどの改善に繋がりました。
灯油、シンナー、錆止めスプレーなどの揮発を防止するなど、VOCの排出抑制に取り組んでいる（使用量を減らす、蓋を閉めるなど）	○	どうしても忙しくなると新しいスプレーを使いがちになってしまいます。古いスプレーから使い切るようにミーティングで話し合い意識してもらうことをしました。
化学物質の少ない製品に交換していく	×	
スプレーは控えて刷毛塗に替える	×	

環境に配慮した製品の提供	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
製品の長寿命化を指向している	×	ミスでの作り直しに対してミーティングで話し合いました。イベントの出し物で端材を使用しました。小さいことではありますがこのようなことを続けていこうと思います。災害時でも使用できる製品の開発についても検討していきます。
購入する原材料の仕様を変更し、端材などの削減に取り組んでいる	○	
ミスの削減（予防）	○	



自社ブランド製品の拡販	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
災害時にも役立つアウトドア商品を開発する	○	ORANGEFACEの新商品を開発いたしました。ORANGEFACEのブランドを立ち上げたおかげで製炭炉の製作依頼がきました。ECサイトでの注文が増えつつある 自社商品のBIZBOXをみて授乳室の製作依頼がきました。今年度は自社商品の直接的な売上にはなかなか繋がらないもののそこからの依頼が増えてきました。次年度も自社WebサイトやSNSでの発信を継続していく。
ECサイトの開設、ウェブサイトの更新と利	○	
展示会、イベントへの参加	○	



環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）
廃棄物処理法	一般廃棄物。産業廃棄物（金属くず売却）
騒音規制法	空圧機 3.7x2kW 1台 空調機（水冷式）5.5x2kW 1台
労働安全衛生法	SDS評価
フロン排出抑制法	簡易点検 空圧機 3.7x2kW1台 空調機 5.5x2kW1台 0.85kW1台 1.7kW1台
消防法	消火器、消防設備 点検
顧客要求事項	材料仕入先の出荷証明（要求された場合） 寸法の指定、仕上げの完成度、材料の指定（鉄、真鍮、ステン、アルミ）等

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。

なお、違反、訴訟等も過去3年間ありませんでした。



□外部からの環境上の苦情・要請等

取り組み期間中外部からの苦情・要請等ありませんでした。

緊急事態対応の試行・訓練

緊急事態の想定： 火災の発生		
■実施日： 2024/6/19 (13:00～13:15)	■実施場所 工場内	11 安全確保の取り組み 安全文化の推進
■参加者： 従業員9名		
■実施内容： ☒ 通報訓練 ☒ 消火訓練 ☒ 避難訓練 溶接の火花がゴミ袋に引火。消防署へ通報。工場内全員の避難。消火器3台で消火活動		
■評価：		手順書の変更の必要性 ☒ あり ☐ なし
手順書通りに進めることができました。 手順書には毎年12月の実施と記載されているが、5月ごろの方が実施のタイミングが業務上好ましいことから手順書を変更する。		
■実施状況の様子		

代表者による全体の評価と見直し・指示

実施日：2024年11月10日

2023年10月1日から2024年9月末までの評価について、以下の通り報告いたします。

前年度から、ゴミの重量を都度計測する取り組みを開始し、今期からはジュースなどのスチール缶、アルミ缶の資源ごみの分別を実施しました。さらに、ペットボトルに関しては、当社契約の自動販売機横の専用ゴミ箱に分別するよう指導しました。同時に、紙類の分別も行い、紙の処分場への持ち込みを通じて、段ボールと普通紙の分別の重要性を認識しました。これにより、ゴミの重量を大幅に削減することができました。特に、段ボールが大きな体積と重量を占めていたことが判明しました。

また、トラックなどのガソリン代も大幅に削減されました。これは、各住宅現場の納品がお得意先様の倉庫へ一括納品され、実質的な納品に費やす距離と時間が減少したためです。

自社アウトドアブランド「ORANGEFACE」のマーケティング活動において、展示会などを通じて多くのアウトドアファンに知ってもらうことができました。顧客との交流の中で、環境に配慮した商品開発のヒントを得ることもできました。

白澤の後任として迫田が引き継ぎましたが、他の社員の協力もあり、取り組みを継続することができました。今回の成果や課題を全社員に共有し、社員の自主性を促進していきたいと考えています。

環境経営方針	☒ 変更なし	☐ 変更あり
環境経営目標・計画	☐ 変更なし	☒ 変更あり 一般廃棄物の基準年44期に変更
実施体制他	☒ 変更なし	☐ 変更あり